（公財）国際宗教研究所　宗教情報リサーチセンター

20周年記念誌・国外

→デジタル版公開ページ　http://www.rirc.or.jp/20th/20th.html

＊印刷してご利用の際は 2 頁目以降を印刷して下さい。

韓国 SGI の展開と現況

李和珍

はじめに

創価学会の韓国への布教開始は 1960 年頃である [1]。1960 年 5 月に池田大作が第 3 代会長として就任して、同年 10 月にはアメリカへの布教（創価学会では広布という）が開始されるが、その直後のことである。現在、創価学会は公称で日本では 827 万世帯、海外には 192 ヶ国と 220 万人の会員がいるとされるが [2]、海外信者の中で韓国の占める割合はきわだっている。

韓国内で活動をしている日系新宗教は、2003 年の韓国における実態調査結果では 18 教団 [3] で各教団の公称の信者数を合計すると 192 万人を越える。そのうち、仏教系の教団である韓国 SGI（韓国の創価学会を指す）は 1,485,013 人である。これは韓国の全人口の 4％に当たる数字である [4]。日本の創価学会ホームページの創価学会インタナショナルには、海外メンバー数は 220 万と記載されている。その中で「アジア・オセアニア」が 142 万である（https://www.sokanet.jp/sgi/gaiyo.html）。その大半が韓国の会員であり、また海外会員の過半数は韓国 SGI が占めていることになる。

本稿では、韓国における新宗教としては大きな組織に発展した韓国 SGI について、歴史と活動、現況を示すが、特に 21 世紀に入ってからの活動に焦点を当てる。また韓国特有の活動や状況があるかについても探ってみる。韓国内の活動については、その内容が細かく掲載されている韓国 SGI の機関紙「和光（ファガン）新聞」（週刊）に主に依拠して考察する。

1. 韓国 SGI の歴史

1960 年代に韓国で布教を始めた創価学会であるが、1964 年 1 月には韓国政府により創価学会の布教活動を禁止する行政処分が下された。その後も政府からの布教活動制限措置は続いたが、80 年代の全斗煥（チョンドゥファン）政府の時に措置は解除された。韓国 SGI は 90 年代に財団設立を申請するが、2000 年金大中（キムデジュン）政権になっ

てからその許可が下りた。このように、政府の取り締まりがあったり、日本の宗教だという国民の反日感情による創価学会の批判も続いたが、1976 年 5 月には韓国の創価学会「韓国日蓮正宗仏教会」が発足した。1991 年に日蓮正宗と分かれてからは「SGI 韓国仏教会」、2000 年に韓国政府に公式法人として登録されてからは「韓国 SGI」と呼ぶようになった[5]。

韓国 SGI は日蓮正宗の国内流入ルートである大邱の慶尚北道地域を中心とした崔圭恒（チェギュハ）によって布教を展開する足場をつくったと言える。1960 年代初期に韓国内にあった日蓮正宗の集団は、ソウル地域に朴素巖（パクソアム）を中心としたチャンシンドン派、李貞順（イチョンスン）らを中心としたチョンヌン派と、崔圭恒を中心にした大邱派、イム・ソンギュ[6]を中心にした釜山派などがあった。69 年 3 月当時、ソウル地域だけでもトンデムン（朴成日（パクソンイル））、ウォンナムドン（イ・トンス）、中央（ファン・ソクファン）の 3 つの派に分裂している状態であった。これらの派は日本の創価学会から 69 年に統合を要求されるが、統合の道を選ばず、別組織をつくる派もあった。

創価学会の指導があって 74 年 5 月に統合組織として「日蓮正宗仏教会」が結成された。75 年 11 月には全国 18 個統合本部、77 個地域本部で統合組織を出発させ、「日蓮正宗仏教会統合本部」を設置した。76 年 2 月からは創価学会から幹部級 20 名が毎月 2、3 回来韓し、組織強化に励んだ。同年 5 月には「9 人運営委員会」と「3 人議長制」を導入して組織を二元化し、「韓国日蓮正宗仏教会」として正式に発足した。議長の 3 人はソウル代表のイ・トンス、大邱（テグ）代表のソク・ナムス、釜山代表のホン・ソンハクが任命された。

78 年に 3 人の議長団と 9 人の運営委員会の任期満了により、集団指導体制から 1 人中央集権体制に転換する。78 年 8 月に初代理事長キム・トンヒョンが就任され、30 個統合本部を導いた。創価学会から派遣された泉指導長の影響を受け、日蓮正宗仏教会は創価学会の韓国支部としての性格が強まっていき、日蓮正宗の勢力を排除し始める。それによって 79 年 1 月にウォンナムドン派のイ・トンスは日蓮正宗仏教会を脱会した。また、朴素巖の兄で 1 万世帯を折伏したとされる朴成日のトンデムン派が、創価学会の干渉を嫌い、日蓮正宗の本寺である大石寺と直接関係を持っていたため、81 年に創価学会との縁を切り韓国日蓮正宗総本部として独自の路線を宣言した。

81年にチョ・デチョルが2代理事長に就任するが、日本の創価学会に隷属することに反対して「仏教会浄化推進委員会」を組織し、執行部に反旗を揚げた。そうしたなか86年2月28日には全国統合本部を「圏」と名称を変更し、87年9月6日に本部を現在のソウル特別市九老（クロ）区に移転した。全国組織16個方面、54圏に改編し、教勢を安定させていった。同年12月に図書出版和光新聞社を登録し、『御書全集』韓国語版を発刊、88年9月には月刊『法蓮』を出版するなど出版物での布教活動に尽力した。

1990年9月21日に池田大作SGI会長が韓国に初めて訪問したが、これを機に「韓国SGI仏教会」を対外的名称として使うことにし、9月21日を「仏教会の日」として宣布した。91年11月7日、創価学会が日蓮正宗から破門されることで、韓国SGI仏教会は、創価学会との関係が強化され、池田会長のスピーチが御書全集の語録になり、池田中心体制へ向かうようになった。

94年4月に3代理事長のパク・トクヒョンが就任し、95年2月には全国23個方面、69個圏に組織を拡大していく。96年9月1日に「国土大清潔運動」を始め、社会的活動を展開した。97年4月には第4代理事長にパク・ゼイルが就任し、韓国SGIの社会的活動がより本格化される。全国の地方自治団体から各種の感謝牌（感謝の盾）と表彰牌を受賞するなど、社会活動の領域を広げていった。パク・ゼイル理事長は財団法人の登録に尽力していくなか、文化観光部に財団法人登録のロビー資金20億ウォンの流出疑惑、会館建立などの建設不正疑惑、理事長の独断的な運営などに対する不満と疑惑が浮上し、内部での葛藤が生じた。2000年5月には韓国SGI最高協議会を発足させ、紛糾を解決しようとした。これと別に同年7月には真相究明のために新生韓国委員会（新韓委）が結成されるが、最高協議会は新韓委を敵対勢力とみなした。執行部の弾圧もあり、新韓委は2001年8月に廃止される。2001年1月には第5代理事長のヨ・サンラクが就任し、2003年4月には地上12階、地下5階規模の新しい本部建物を建て、組織も全国30個方面、106個圏に再編し教勢を拡大していく[7)]。

一方、第4代理事長のパク・ゼイルの不正・腐敗と人権弾圧に抵抗するという目的のもとに、1999年「正法正義」というグループが生まれ、大邱を中心に「善の連帯」が結成された。「善の連帯」は「SGI反対派」と呼ばれるが、現在も執

行部との対決状態にある[8]。

2. ウェブサイトから見る韓国 SGI

創価学会の公式サイトである SOKAnet（https://www.sokanet.jp/　日本語）には、「創価学会について」の紹介と「平和・文化・教育」の活動についての詳しい情報がある。また、「創価学会インタナショナル」は「SGI の概要」「SGI 憲章」「SGI リンク集」で構成されている。「SGI リンク集」の中には SGI の公式サイト（http://www.sgi.org/　英語、中国語、スペイン語閲覧可能）および、世界各国・地域のおもなホームページが掲載されている。そこから韓国 SGI（http://www.ksgi.or.kr/index.ksgi　韓国語）へのリンクがある。

ウェブサイト上で、韓国語で読める創価学会および韓国 SGI に関連するサイトは、以下の通りである。 これらのサイトは、韓国 SGI のホームページに「ファミリーサイト」として登録されているものである。

- 財団法人韓国 SGI　http://www.ksgi.or.kr/index.ksgi （公式サイト）
- 和光新聞社　http://www.hknews.co.kr/ （公式サイト）
  - 和光新聞　http://www.hknews.co.kr/index.asp （1991 年記事から閲覧可能）
  - 月刊法蓮　http://www.hknews.co.kr/spr/ （2002 年 7 月号の記事から閲覧可能）
  - 御書検索　http://nd.hknews.co.kr/main.aspx
- 和光新聞インターネット書店　http://www.hkshop.kr/ （図書、仏具、記念品、定期講読）
- 法華経　http://thelotussutra.org/index_ko.jsp （法華経平和と共生のメッセージ展）
- 幸福幼稚園　http://www.sokahappy.co.kr/ （ログインが必要）[9]
- 韓国 SGI 平和公園　http://www.peacepark.or.kr/（追慕公園）[10]

韓国SGI公式サイトについて簡略に説明する。上段部には、①「SGI紹介」、②「幸福分け合い」、③「新入会員」、④「未来部」、⑤「メディア」、⑥「会員サービス」の項目がある。また中央部には「新便り」（新着便りが随時更新）、「座談会」（一般資料と座談会企画紙はログインが必要、座談会御書は閲覧可能）、「新入会員」、

「座談会御書講義」（動画）、「未来部」、「広告欄」（広報動画、書籍紹介等）がある。

まず、①「SGI 紹介」に入ると、4 つの構成となっている。

・「理念」欄には概要、釈迦、日蓮大聖人、日蓮仏法、信仰の実践についての説明がある。

・「韓国 SGI」欄には紹介、主要活動、施設紹介、アクセス。

・「SGI」欄には SGI とはと三大会長についてまとめられてある。

・「SGI 会長の授賞履歴」欄には国家勲章（30 個）、名誉学術称号（1975 ～ 89、 1990 ～ 99、2000 ～ 2009、2010 ～の時代に区分され、日付、授与した国、機関が表示）、韓国内の各種顕彰（1990 ～ 99、2000 ～ 2009、2010 ～の時代区分で、日付・団体 / 機関・内容が表示）がある。

この 4 つの構成の中から、「韓国 SGI」の「主要活動」と「SGI 会長の授賞履歴」についてその特徴をまとめる。

前述したように創価学会の主な活動とされているのは「平和・文化・教育」である。同様に、韓国 SGI においても、平和・文化・教育の 3 つの活動が主要活動として挙げてある。しかし、もう一つ「社会貢献」が加えられている。4 つの活動についてまとめる。

平和に関しては、韓半島の平和と友情の社会を建設するために、正しい歴史観の成立と人間の権利を保護するためのキャンペーンを展開している。日韓の正しい歴史認識のためのキャンペーンと、人権保護活動をはじめ、平和の世紀のための NGO 活動とセミナー「キャンパス平和文化活動」も行っている。特に、池田 SGI 会長は「SGI の日」の記念提言で韓半島の平和構築のための具体的な提言を発表している。

文化に関しては、多様な文化の特色を互いに尊重するのが SGI の基本考えである。近隣住民とともに行う文化祭や芸術祭を通してお互いに心を開き、平和について話し合い、ともに生きていけるように道をつくるのが目的とされている。

教育に関しては、2004 年 6 月に学校法人「創価学園」を設立した韓国 SGI は、創価教育の理念の人間性を開発し、充実した幸せな生活ができるようにという理念の教育運動をしている。2002 年から毎年、小中高校生を対象に読書の大切さを伝える「ナウリ文芸祭」[11] が開催されている。中等部英語スピーチ大会、

少年少女希望絵画公募展なども行われている。

社会貢献運動としては、1970 年代から実施している国土大清掃運動がある。「環境と人間は一つ」というテーマで行われ、90 年代には毎年 30 万人以上が参加した。その他、献血運動、災害被害者支援、孤独老人のためのボランティアなども行っている。「子どもが幸せな国造り」後援の夜を開催し、毎年 3 万 3 千余名の一人親家庭の子どもと、50 万 7 千余名に至る虐待されている児童に希望の光を与えている、と紹介している。この社会貢献運動は韓国の特徴的なものと言えよう。

池田大作 SGI 会長（以下、池田会長と記す）は世界各国から名誉博士、名誉市民などを授賞しているが、「SGI 会長の授賞履歴」の中から韓国での受賞履歴についてまとめる。国家勲章としては、2009 年 11 月に花冠文化勲章 (Hwa-Gwan Order of Culture Merit) を受章しているが、名誉学術称号は、1998 年 5 月から 2015 年 9 月まで次のように 18 件ある。

1998.5.15　慶熙大學校名誉哲学博士
1998.7.4　忠清大学校名誉教授
1999.5.17　国立済州大學校名誉文学博士
2001.12.8　慶州大學校名誉教授
2001.12.15　国立昌原大學校名誉教育学博士
2002.6.28　徐羅伐大學校名誉教授
2002.12.2　東亞大學校名誉哲学博士
2003.10.18　光州女子大學校名誉教授（夫妻　共同受賞）
2004.11.23　百濟藝術大學校名誉教授（夫妻　共同受賞）
2006.6.17　東新大學校名誉行政学博士
2007.2.6　東洲大學校名誉教授（夫妻　共同受賞）
2009.4.2　国立韓國海洋大學校碩座教授
2009.9.4　弘益大學校名誉文学博士
2010.12.23　建陽大學校名誉経営学博士
2011.7.17　国立忠州大學校名誉経営学博士（碩座教授）
2011.9.16　国立釜慶大學校名誉国際地域学博士
2015.5.4　北韓大学院大學校名誉碩座教授
2015.9.20　慶南大學校名誉教育学博士

その他、1999年から2019年1月まで韓国の全地域の市長や団体から、名誉市民証や感謝牌を授与されている。その数は297件であるが、その中には「国家勲章」と「名誉学術称号」も含まれている（http://www.ksgi.or.kr/about/sgi/prize/award.ksgi?tabType=1）。

②「幸福分け合い」欄は、幸福物語（会員の紹介）、韓国SGI便り、世界SGI便り、私の友へ（名言など）、文化招請（音楽会やオーケストラの観覧案内やチケット、講師募集など）、宇宙市民天文台（施設の紹介とお申込）に分けられている。

③「新入会員」欄には、勤行についての説明とその意義と勤行オーディオファイルがある。また新入会員のための動画と新入会員Q & Aがある。

④「未来部」欄には、未来部世界（未来対話、仏教童話、希望に満ちた広い空へ）、未来部教材（毎月紹介される教材がログインするとダウンロードできるようになっている）、推薦図書（韓国出版文化産業振興院の出処から様々な本が紹介されている）がある。

⑤「メディア」欄には、動画とオーディオファイルがある。動画にはSGI便り（座談会のスピーチなど29個）、SGI会長（33個）、座談会御書e講義（68個）、教学映像（10個）、仏教説話アニメ（10個）、新入会員（基礎教学映像物13個）、新刊書籍（新人間革命など37冊が紹介）がある。

⑥「会員サービス」欄には、座談会のマニュアル（座談会の意義、運営方案）、資料室（座談会企画紙、一般資料、座談会の御書講義原稿、世界青年部総会）があるが、その内容を閲覧するためにはログインが必要である。

①～⑥の項目から分かるように、創価学会のホームページと大きな差はないことが分かるが、韓国の独自のものとして挙げられるのが②「幸福分け合い」である。ここには世界SGIについてのニュースも発信しているが、それよりも韓国会員の体験談などが紹介され、会員向けに発信する情報が多数あることで、韓国SGI関連施設、活動の詳細など、韓国の状況が分かる有効な項目であると思われる。

3.「和光新聞」から見える韓国内の活動

1951 年 4 月 20 日に創刊された創価学会の「聖教新聞」は、旬刊 2 ページ、発行部数 5 千部から出発し、現在は日刊で 12 ページ 550 万部を発行している。聖教新聞の電子版（https://www.seikyoonline.com/）を見ると、「報道・連載」「池田大作先生」「教学・活動」「信仰体験」「生活」「文化・情報」「読者欄」「面別一覧」の構成である。聖教新聞のほかに聖教新聞社が出版している刊行物は、「グラフ SGI」「大白蓮華」「創価新報」などの定期刊行物や『人間革命』（全 12 巻）、『新・人間革命』（全 30 巻）、『池田大作全集』（150 巻）などの図書、御書・教学、文庫などがある。「聖教新聞」と同様な機能を果たしているのが韓国 SGI の「和光新聞」である。

和光新聞の電子版の構成は、「総合」、「国際」、「企画特集」、「教学」、「人々」、「和光連載」、「和光ライフ」となっている。日本と少し異なる構成になっているが、和光新聞を通して、韓国 SGI の現況は知ることができる。この章では、和光新聞という出版物を用いた韓国 SGI の布教活動の現状、文化会館の数からみえる教勢、池田 SGI 会長に関する記事はどれくらいであり、どのように取り上げられているのか、というこの 3 点に焦点を当てる。

(1) 出版物を用いた布教活動

韓国 SGI の情報発信は和光新聞社が担っている。まず、和光新聞社の沿革と出版物の概略を紹介する。和光新聞社は、1987 年 12 月に「図書出版和光社」として登録し、88 年 12 月に「有限会社和光出版社」と改称して設立された。89 年 4 月に日蓮大聖人御書全集の初版を発刊、同年 6 月に月刊「法蓮」を登録し、9 月に「法蓮」創刊号を発行する。「法蓮」は仏法に基づいた平和、文化運動の理論雑誌で、世界識者との連載対談と親しみやすく仏法哲学を学べる教学コーナー、多様な文化と体験などを紹介する特集コーナーで構成されている。創価学会の「大白蓮華」を意識してつくったものと推測される。

1991 年 7 月には「聖教タイムズ」（旬刊タブロイド判 8 面）を創刊、94 年には「聖教タイムズ」金曜版を週刊で発行を開始（旬刊から週刊へ）する。96 年からは全紙面がコンピュータによって製作される CTS システムを導入している。

97 年 5 月に「和光新聞社」に称号変更し、同年 7 月に第 255 号から大判で発行する。この際に「聖教タイムズ」が「和光新聞」へと名称を変更した（和光新聞 1997/06/06、251 号）。98 年 7 月には 303 号が横判で発行されるが、このときタイトルが漢字からハングルへと変更される。2002 年 5 月 27 日には「（株）和光新聞社」と称号を変更し、2003 年には和光新聞インターネット書店がオープンする。2004 年 6 月 10 日に季刊誌「グラフィック SGI」を登録、

同年 7 月 3 日には「グラフィック SGI」創刊号を発行する。日本の「グラフ SGI」と同様に池田 SGI 会長の活動を中心に、国際創価学会の平和・文化・教育運動を伝えている。前頁の写真のように、表紙のデザインも似ていることが分かる。

韓国 SGI の定期刊行物は、週刊紙「和光新聞」（年間 14,000 ウォン）、月刊誌「法蓮」（1 部 1,500 ウォン）、季刊「グラフィック SGI」（1 部 3,000 ウォン、ハングルと英語で構成されている）がある。また、未来部教材としては、「ヘドッジ（日の出）」（少年少女部、月刊無料）、「メチョロム（清楚）」（中等部、月刊無料）、「チョンイウィチュザ（正義の走者）」（高等部、月刊無料）、「チョンラム（青藍）」（大学部、月刊無料）。出版物の全体リストには連載小説（人間革命）、教学（5 冊）、スピーチ（4 冊）、エッセイ（5 冊）、教育（5 冊）、子供（5 冊）、その他（和光新聞社）などに分かれている。

和光新聞は、韓国 SGI の機関紙として 1991 年 7 月 3 日に創刊された。仏法思想のヒューマニズムを根源とし、世界中に平和の光を当て、無限な価値を創造していく文化新聞であるとホームページに紹介されている。「和光」という言葉の意味は、和光新聞社の旧ホームページによると、世界と韓国全体の平和を意味し、永遠の栄光を象徴すると記している（http://www.hknews.co.kr/newspaper/new_newspaper_1.html）。和光新聞は 2007 年 5 月 1 日には 55 万部発行、2012 年 6 月 1 日に 60 万部発行、同年 12 月には 1000 号を発行している。現在、韓国全国 46 方面、138 圏に週刊で 16 ～ 20 面で約 70 万部が配布されている。

和光新聞は、韓国での布教活動に大きな役割を果たしている。和光新聞を用いて布教活動をしているのは、「カンナグループ」である。「カンナ」とは花の名前で、韓国 SGI では「カンナ活動」ともいう。「カンナグループ」に関する記事は 1,000 件を超えている。カンナグループの活動が大半を占め、頻繁に行われる総会や研修会、座談会などを開き体験談が紹介されてあって、カンナ活動に力を入れている様子が分かる。4 つの記事を紹介する。

その 1）

和光新聞を配布しているのは、韓国 SGI の婦人部である「カンナグループ」の役割が大きい。1993 年 12 月 7 日にクァンソン会館で「聖教タイムズ」配達員大会が行われ、ソウル方面の婦人部 1,100 余名が参加した。池田先生がこの

日の会合を祝賀すると同時に、配達員の名前を「カンナグループ」と命名した、と伝えている。和光出版社の代表理事が配達員の労苦に感謝し、会員が希望する日刊紙として発刊できるように努力すると挨拶をした。パク・トクヒョン理事長代行は、SGI 会長の配慮によって全世界で最初に誕生した「カンナグループ」に祝賀の挨拶をし、「此の御本尊全く余所に求る事なかれ・只我れ等衆生の法華経を持ちて南無妙法蓮華経と唱うる胸中の肉団におはしますなり」を引用した（和光新聞 1993 年 12 月 21 日、87 号）。

その 2）

妙法のメッセンジャーであるカンナ、「広宣流布」は、使命を自覚する数多くの「影の人」の労苦があるからこそ可能になる。広布の機関紙である和光新聞を読者に届けてくれる「無冠の友」であるカンナの活躍はとても大事である。「無冠の友」の人知れない影の労苦があって「平和と文化に貢献する人間の機関紙」という妙法のメッセージが読者の手に届けられるのである（和光新聞 98/02/27、285 号）。

その 3）

「平和・文化・教育に貢献する人間の機関紙」を毎週、友に届ける無冠の友カンナ」というタイトルの記事には次のような記事がある。

和光新聞 15 年の歩みが、広布の伸展の歴史であることは改めて言うまでもない。和光新聞の拡大はすなわちそのまま広布拡大である。この栄光の歴史は陰で黙々と使命を果たした数多くのカンナの労苦があったから可能だった。池田 SGI 会長は、「歴史を動いて造るのは一人の英雄ではない。命を懸けて戦う影の人だ」とおっしゃっている。誰も褒めてくれなくても、広布のために黙々と行動する人。それが無冠の友、いわゆる韓国 SGI の宝であり広布推進のエンジンである（和光新聞 2006/06/23、690 号）。

その 4）

「幸せになる新聞です」。ホン氏は、1991 年に和光新聞が創刊されて以来、続けて和光新聞を配達し、布教に励んだ。宿命転換の仏法に出会えたことに感謝し、他の人も幸せになってほしいという気持ちで新聞を渡す。雪が降っても雨が降っても変わらず、カンナ活動を続けていたら、「どのような宗教ですか？」「座談会に行ってみたいです」という仏法に関心を寄せて入会を希望する隣人が

少しずつ増えた。「毎週和光新聞を持って訪ねるから、人々は私を待っていたかのように喜んでくれます。それが嬉しくて幸せです。布教の王というあだ名ができるくらいに布教活動ができたのは、カンナ活動の力が大きかったです」（和光新聞 2018/06/1、1260 号）。

以上のように、「カンナグループ」が和光新聞を配るという活動は、「聖教タイムズ」の時代から現在まで続いており、その絶えざる活動は強く称賛されていることが分かる。「カンナグループ」による和光新聞の配布が布教の大きな役割を果たしていることも見てとれる。

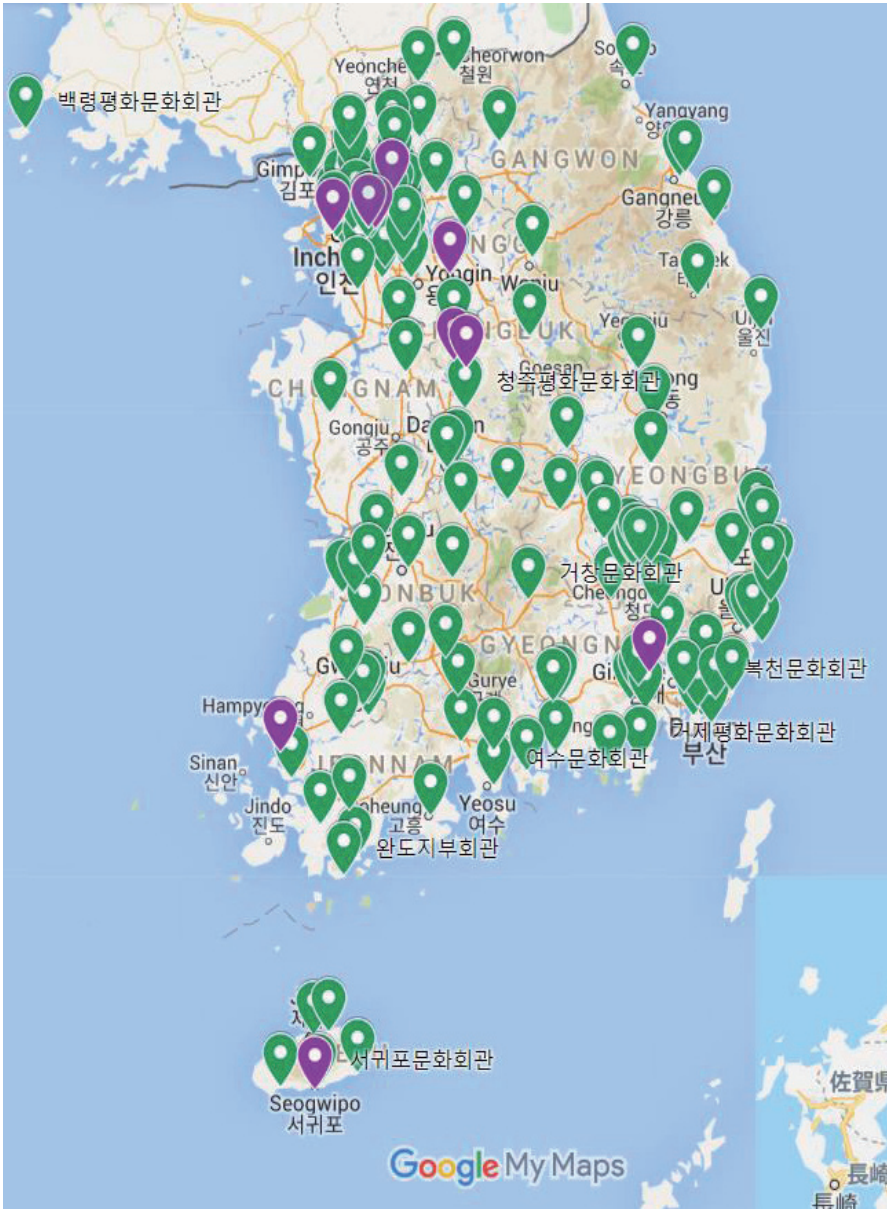
（2）文化会館の数から見える布教現況

韓国 SGI のホームページには、韓国全国に文化会館が 320 ヶ所あると記載されている。「施設紹介」の項目にある「文化会館を探す」欄から「地域名」と「会館名」で会館を探すことができる。全国の地図が 16 地域に区分されており、その地域を押すと、下段部に方面、圏、文化会館名、電話番号、見る（詳細）が表示される。「見る」をクリックすると、会館の正面写真と名前、地図、住所、電話番号、FAX 番号、e-mail、アクセスなどの詳細情報が見られる。ここから閲覧できた文化会館の数は、119 ヶ所であった。

和光新聞の電子版記事から「文化会館」で検索をかけて出てきた記事数は 806 件で、「開館式」で検索した結果が 274 件であった（「総合」欄のみの数。全体は 1,400 件を超すが、国際・連載・教学などからは文化会館の設立の情報はないため省いた。2019 年 1 月 28 日時点）。それらの記事を閲覧して、文化会館が開設された年月日と住所をまとめて地図に記載したのが図 1 である。数が多くて分かりにくいが、文化会館は 197 ヶ所ある。済州（チェジュ）島など島嶼部も含めて、全国にまんべんなく広がっている。紫色（地図でやや濃いめの印）は、韓国 SGI 関連機関で、本部棟、研修院、新聞社、平和公園、幼稚園、宇宙市民天文台など 13 ヶ所である (図 1 参照)。

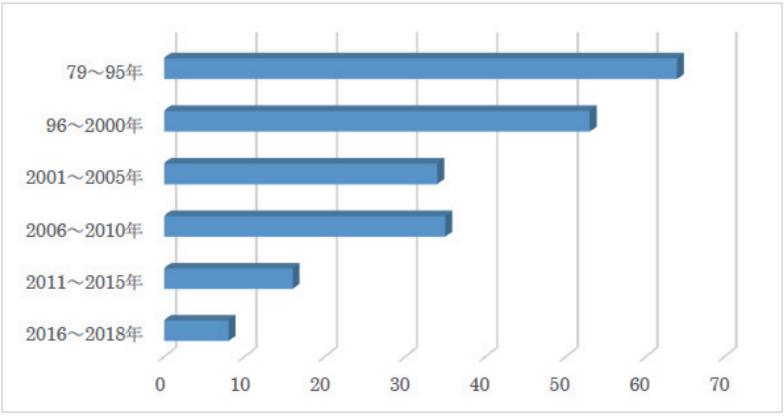
文化会館を含む関連施設の開設時期を 5 年ごとに分けてグラフにしたのが、グラフ 1 である。電子版の記事は 91 年から記載されているため、それ以前の情報については確認できない。閲覧可能な記事の内容から分かったのは、79 年

図 1　韓国 SGI の文化会館

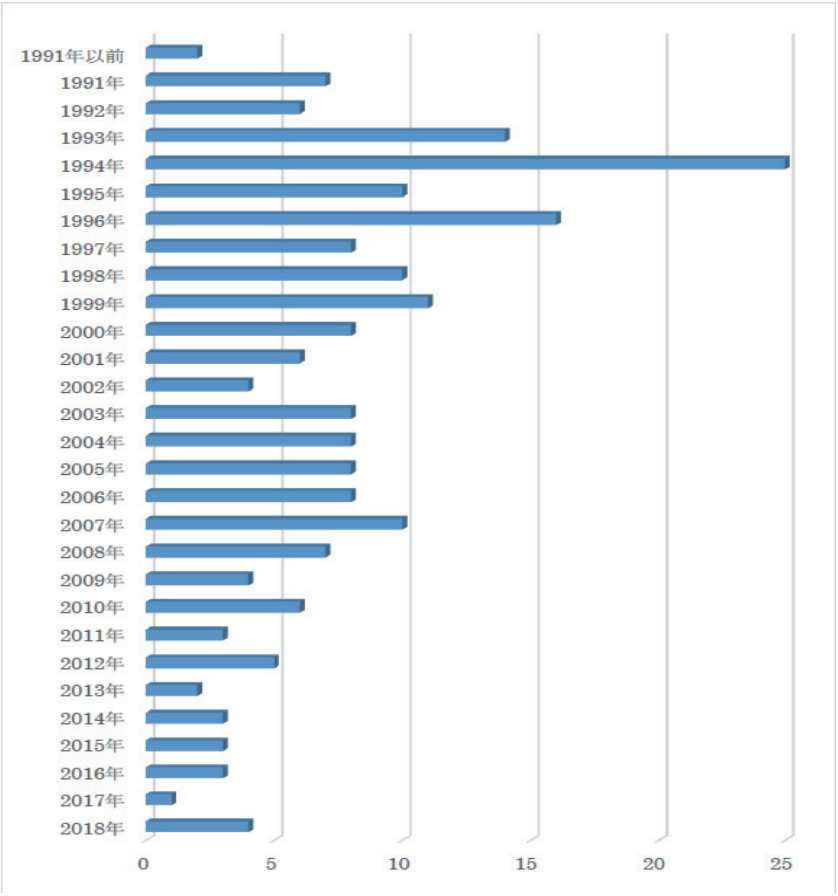


＊（モノクロ印刷の場合）やや濃いめの印が文化会館以外の SGI 関連機関。

グラフ 1　韓国 SGI の文化会館の設立数（5 年ごと）



グラフ 2　韓国 SGI の文化会館の設立数（1990 年以降）

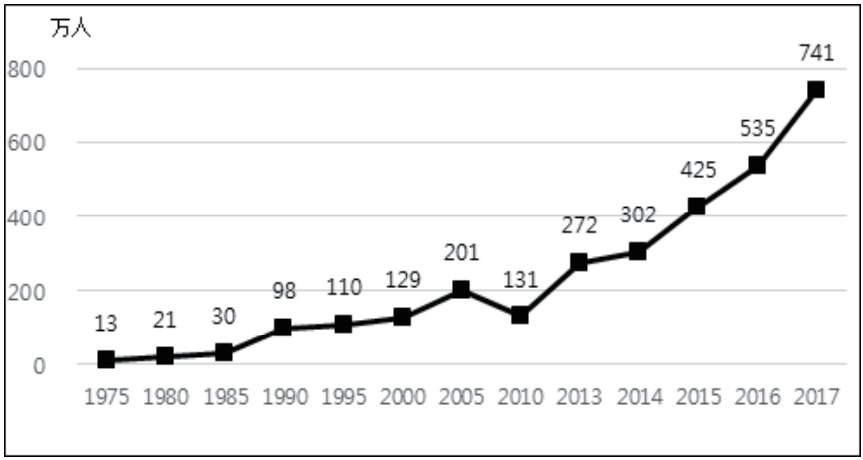


と 89 年に開設されたものがあるということである。90 年から 2000 年までに一気に増加していることが分かる。より詳しく 1 年ごとにもその変化をグラフ 2 に表示した。文化会館の名前を変更したり、増築、リニューアルオープンをした会館はグラフの数には入れてないが、それらは 33 ヶ所あった。

90 年代に急増化を見せている背景には何があるのであろうか。SGI の会長である池田大作が韓国を初めて訪問したのは、1990 年 9 月 21 日である。「東京富士美術館の設立者である SGI 会長は、日本に文化を伝えてくれた韓国に少しでも恩返しができればという気持ちで、富士美術館所蔵の「西洋絵画名品展」をホハムギャラリーで開催した」という内容の記事がある（ソウルタイムス、http://www.seoultimes.net/news/articleView.html?idxno=2787）。和光新聞には 90 年の情報は閲覧できないため、それについての記事はないが、1998 年 5 月 18 日に韓国 SGI 本部に池田会長が訪問したという記事がある（和光新聞 1998/05/29、298 号）。90 年代に文化会館の増加が著しい理由として第一に考えられるのは、この 1990 年の池田名誉会長の訪韓であると考えられる。

文化会館の増加は、ある程度韓国における会員の増加を反映していると考えられるが、一部に日本の宗教に対する反感を持つ人がいる韓国において、創価学会がこれほど多くの韓国人に受け入れられた要因は何であろうか。日本の法務省資料によると、2017 年の日本に入国した外国人の数は約 2,743 万人（再入国者含む）であるが、そのうち韓国からの入国者は約 695 万人である。対前

グラフ 3　日本に入国した韓国人数　（法務省のデータ参照）



年比 41.3％増で、増加率は最も多い。日本に 90 日間まではビザなしで入国できるようになったことで、韓国人が日本に行ける機会は増えたという事情はある（グラフ 3 参照）。

しかし、来日する韓国人が増えたことが創価学会の信者の増加と関係があるかどうかは分からない。グローバル化の中で文化交流の機会も増え、日本文化また日本宗教全体に対する警戒感が少しはやわらいだ可能性はあるとしても、現段階ではその影響があるとする具体的データはない。

(3) SGI 会長池田大作に関する記事

日本と同様に、韓国 SGI にとって池田会長の存在は偉大で絶対的な存在であることは、ホームページと和光新聞の記事からも知ることができる。池田会長がどのような発言をし、韓国についてどう思っているのか、会員は会長について称えているのか、どのように繋がりを感じているのかを、和光新聞の「総合」欄の中にある「韓国は文化大恩の国」と、「人々」欄にある「人物語」という項目に焦点を当てる。

まず、一つ目の「韓国は文化大恩の国」という項目の内容からみる。ここには「韓国は文化大恩の国・池田 SGI 会長スピーチから（1）」（和光新聞 2005/4/22、633 号）から、「韓国は文化大恩の国・池田 SGI 会長スピーチから（133）」（和光新聞 2010/9/3、891 号）までの記事が掲載されている。その内容は池田会長のエッセイ「新人間革命」などからの言葉や、会談の中の言葉、総会・大会の際のスピーチ、各国から名誉博士学位などを授与された時の言葉などをまとめて紹介するものである。

数多い池田会長のスピーチや言葉の中から、和光新聞が韓国側にとって重要だと意識している記事を発信していると考えられる。その中から池田会長が韓国についてどういうスタンスをとろうとしているのかが鮮明になっている例を 5 つか紹介する。

その 1）

「韓国は文化大恩の国・池田 SGI 会長スピーチから（1）」には 3 つの内容が紹介されている。

・1966 年 1 月 6 日に開かれた第 16 回在京高等部部員会での発言。「1919 年 3 月 1 日に日本の支配下にいた韓国で独立運動がおこり、ユ・クァンスンという女学生が運動の先駆者として活躍しました。日本官憲に捕まり、弾圧と拷問をうけました。16、17 歳の少女が「御本尊」もなく、信じるもののない現実で、祖国を助けるという決意一つで戦いました。今、彼女は殉国のお姉さんとして尊敬され、彼女を称える歌を若者は歌います。私はこれをみてとても素晴らしいと感じました」。
・1987 年 1 月 31 日の韓国教員大学校の総長との会話の中での発言。「韓国は中国と同様、日本には文化の恩人であります。仏教は韓国を通して伝わり、多くの文化的影響を受けました。韓国では 372 年に大学が創設され、教育に貢献していました。日本の大学設立は 8 世紀で 300 年以上遅いです。このような面も日本は韓国から多くのものを学びました」。
・1990 年 9 月 14 日に池田会長が初めて韓国を訪問してサムスングループのイ・コンヒ会長との会談での発言。「尊敬する貴国、韓国のことわざに『千里の道も一歩より』とあります。今回の ‘西洋絵画名品展’ がこれからの文化交流、民衆交流の意義ある第一歩であることを望みます。私は、世界に文化の道を開くことに尽力しています。特に、文化の大恩人である貴国に少なからず報恩の一部になれればという気持ちです」。

その 2）

「韓国は文化大恩の国・池田 SGI 会長スピーチから（4）」（和光新聞 2005/6/10、640 号）。『新・人間革命』（83）の一部である。「1999 年 5 月 16 日に、私は済州島を始めて訪問した。国立済州大学校から名誉文学博士学位を授与した。17 日のことである。かつて傲慢な日本は人倫を踏みつけ、この ‘文化大恩の国’ ‘師の国’ を蹂躙した。韓国からこのような栄誉をもらうことがどれほど重大な意味を持っているのか、私はよくわかっている。済州島と日本は縁が深い。7 世紀から日本と交流があった。今日、在日韓国人の約 2 割が済州島出身の方だという。1922 年、済州島と大阪をつなぐ定期船の直通航路が開設された。これが関西に済州島の方が多いきっかけだと思う。むろん、日本の植民地支配を背景にしていることで、以後在日韓国人が歩んできた歴史はどれくらい辛いことが多い歳月だったのか…」。

その 3）

「韓国は文化大恩の国・池田 SGI 会長スピーチから（6）」（和光新聞 2005/7/22、646 号）。1998 年 5 月 27 日、関西各方面協議会のスピーチで、池田会長が紹介した逸話。「日本が戦争で負けて満州にソ連軍が侵略し、日本人は逃げていた。これを見た韓民族は、良かったと思う人もいたが、嫌いな日本人でも今、あの人たちは悲惨な状況に陥っている。困難な時に放置するのは卑劣なことだと思う人もいた。ある人は、日本人避難民 400 名を教会に隠してあげたという。復讐するという人から日本人を守ったため、無事に日本に帰られた日本人も多かった。韓民族は文化の大恩人である。だからこのような恩義は忘れてはいけない」。

その 4）

「韓国は文化大恩の国・池田 SGI 会長スピーチから（8）」（和光新聞 2005/8/19、649 号）。3 つの内容から 1 つを紹介する。1992 年 9 月 25 日、第 58 回本部幹部会スピーチの中での発言。「今から 400 年前の 1592 年に豊臣秀吉は朝鮮に 15 万名の大軍を送り、侵略しました。7 年間の戦乱を経て、朝鮮国土に筆舌では表せない損害を被りました。野蛮な略奪、暴行、破壊、殺害、国宝級の文化財も破壊し、搬出しました。今まで何度も言ってきましたが、韓国は、日本に対する文化大恩の国です。にもかかわらず、日本はその大恩を踏みつけ、隣の国の人たちを苦しめました。中国にも同じです。とても非道で、人間の道を外れた日本でした。隣国に対する日本人の侵略は永遠に消すことのできない悪業の歴史を刻みました。これからでも私たちは文化交流、教育交流を通して日本と韓国、そして中国との間で、万代にわたる平和と友好の道をつくってほしいです」。

その 5）

「韓国は文化大恩の国・池田 SGI 会長スピーチから（67）」（和光新聞 2007/8/10、744 号）。2003 年 3 月 5 日、第 26 回本部幹部会・全国長年部幹部会のスピーチの内容。「今日は、まず韓国独立運動の指導者で名声の高いアン・チャンホ先生の言葉を紹介します。‘真理は必ず従う者がいれば、誠意は必ず結果に結ぶ日が来る。死んでも嘘は言ってはいけない’。アン先生は嘘を嫌い、真実を愛した高潔な指導者でした。真実な世界で生きよう！嘘に騙されてはいけない！これが独立闘士の叫びです。創価学会は真理と誠意の団体です。必ず素晴らしい結果を作り出しましょう」。

以上のような例からもよく分かるが、池田大作は韓国を大恩の国として褒め称えており、日韓の友好な関係を維持しようとする姿勢がはっきり見てとれる。平和と教育、教理などについては、韓国のみならず、様々な偉人の言葉を引用しながら会員に説明していることがよく見受けられた。

2つ目は、韓国SGI公式ホームページの「幸福物語」という項目を見ると、池田会長の教えをどのように受け止めて、それを心の支えにして生活しているのかが分かる。「幸福物語」には、会員の現況を紹介するコーナーであり、2006年6月11日から2019年1月21日までの記事が掲載されている。和光新聞に「人々」という項目があるが、その中の記事からピックアップしていくつかのものを「幸福物語」に掲載している。「人々」の中には、「人物語」「体験の現場」「世界の友」「創価の光」「走れ2030」「過去の連載」にまた細分化されている。「幸福物語」にあるいくつかの記事を要約して紹介する。

その1）

海上警察であるオ氏にインタビューした記事。オ氏が経験した最近の事故の中で、韓日中間水域（竹島付近）で国籍がわからない漁船が行方不明になった事故をあった。当時事故地点が日本海上と近く、彼が勤務する海洋治安状況室は日本海上保安庁に緊急協調要請をした。操業中に船員が網にかかって海に落ちて行方不明になり、船は難破した。日韓協同で救助活動をしたが、行方不明者は探せなかった。オ氏はこのよう状況で、人種・国籍は大事ではないと感じ、「対立よりは調和、分裂よりは結合、私よりは私たち（ウリ）を基調に人間同士、また人間と自然が共生して、互いに支え合い、みんなが一緒に繁栄して行こう」という師であるSGI会長のスピーチにより深く納得することができた（和光新聞2013/11/29、1047号から抜粋）。

その2）

（株）KGS代表のチャン氏にインタビューした記事。2014年に安定している会社の本部長という席を捨てる時、誰もが心配した。しかし、彼は自分の成長のために苦しい道を選んだ。海洋プラント特殊装備を開発している彼は、国内で技術

を独占し、絶えず技術開発に励んでいる。「苦労しない分だけ、楽した分だけ、得るものはない」という池田先生のスピーチのように、現実に安住せず、より高いところに向けて、今日も力強く羽ばたいている（和光新聞 2018/12/07、1284 号から抜粋）。

その 3）

2018 年 9 月 8 日、小説『新・人間革命』全 30 巻の連載が完結することに合わせて、「ニコリ」というお店を開いたユン氏にインタビューした記事。「社会に良い影響力のある人になりたい。私が作った多様なデザートとドリンクを飲みながら、ある人は夢を、またある人は希望を持つような、心強い慰めと温かな治癒が共存するカフェをつくっていきたい」と言うユン氏は、目の前に課題があるたびに、池田先生の小説、『新・人間革命』を対話するように読んでいたという。まるで自分に手紙を送ってくださっているような慈愛溢れる慰めをもらいながら、自分の舞台で負けず進めることができたという。師とともに新しい始まりを開いていきたいという気持ちで信心に励んだ結果、お店を開くことができた（和光新聞 2019/01/04、1287 号から抜粋）。

その 4）

韓国総合貿易商社に入社したシン氏にインタビューした記事。8 年間の中国留学を経て、現在は 150 対 1 の競争を経て韓国総合貿易商社に入社し、サービスマーケティング業務を担当している彼女は、「大学院ではすべての科目を英語でやるため、競争が激しかったが、池田先生の励ましのお陰で負けずに立ち直りました。」その結果、彼女は、韓国人では初めて上海海事大学で工学収支学院を収得、卒業前には英国系会社である造船海運分析機関の Clarkson Research に唯一の韓国人として入社した。「世界は青年の舞台です」という池田先生のお言葉から、世界という舞台へ向けて夢を育むことができた（和光新聞 2019/01/18、1289 号から抜粋）。

以上のように、池田 SGI 会長の言葉を会員は、日々胸に刻み、支えにしているのだということを、「幸福物語」のコーナーにおいて、数多く掲載している。明らかに韓国でも池田会長を自分たちのリーダーとして称えていることが読み取れる。

むすび

創価学会が韓国で比較的短期間にこれほどの会員を得た要因についての研究はまだ本格的にはなされていない。欧米における創価学会の展開についてはいくつかの研究があるが[12]、それもまだ十分に資料をおさえたものは少ない。どの地域においても、池田大作をリーダーあるいは師として仰ぐことが、組織の展開においては非常に重要な意味をもっていることは明らかにされている。同時にそれぞれの地域において、どのような人たちが会員となり、どのような要因がもっとも大きな比重を占めるのかといったような点は、緻密な現地調査を重ねることが必要になる。

冒頭にも述べたが、反日感情というものが根強く存在する韓国において、日本の新宗教が少なからぬ韓国人に受け入れられたということは、欧米における創価学会の受容とは異なった視点も求められることは確かである。和光新聞の記事はいくつか手がかりを与えてくれたが、それはあくまで一つの足場に過ぎないことは言うまでもない。

注

1) 創価学会の韓国布教の開始年は、李元範・櫻井義秀編著『越境する日韓宗教文化』（北海道大学出版会、2011）を参照すると、1959 年開始と 1961 年開始という 2 種類の記述がある。1 つは、日本植民地時代の朝鮮半島に日蓮正宗が受容され植民地解放後に撤退したが、1959 年頃に日蓮正宗が再び朝鮮半島に布教活動を開始したというものである。日蓮正宗と創価学会が区分されずに受容され始めたとする [李賢京：p.86]。もう 1 つは、教団別教勢状況をまとめた表にあるもので、韓国 SGI（＝創価学会）の韓国内布教年は 1961 年と記載されている [李元範：p65]。

2) https://www.sokanet.jp/info/gaiyo.html

3) 天理教、金光教、本門仏立宗、日蓮正宗、韓国 SGI、霊友会、立正佼成会、辯天宗、太陽会、世界メシア会、世界救世教、真如苑、善隣教、キリスト同信会、イエス之御霊教会、韓国光明思想普及会（生長の家）、モラロジー、ヤマギシ会。李元範・櫻井義秀編著（前掲書）。

4) 韓国学術振興財団のプロジェクトで 2003 年から 1 年間実施された全国共同調査チーム『韓日宗教の相互受容実態に関する調査』（李元範他 2004）によるもの。

5) 趙誠倫「韓国 SGI 運動の歴史と現況―朴政権下の苦難時代を中心に―」『SOCIOLOGICA』vol.42、No.1・2(通巻 63 号)。

6) 以下、韓国の氏名のうち、漢字表記が知り得ないものについては、カタカナ表記のみとする。

7) 韓国 SGI の歴史については、李元範・櫻井義秀編著（前掲書）と『한국 내 일본계 종교운동의 이해』（韓国内日本系宗教運動の理解）（JC 出版、2007）を参照にまとめた。

8)「善の連帯」の公式ホームページは存在しないが、Daun ブログ、Daum カフェ、naver ブログなど 14 個が開設され、それぞれ活動を続いていることが分かる。

9) 学校法人 '創価学園' が最初に設立した教育機関で、日本、香港、マレーシア、シンガポール、ブラジルに次いで 6 番目の幼稚園である。ソウル市のトンザク区にある同幼稚園は、900 余坪の土地に地下 1 階、地上 4 階の建物で 2008 年 3 月に開園した。日本、香港、マレーシア、シンガポール、ブラジルに続く 6 番目の幼稚園。ソウルに 2008 年に開園して 900 余坪の土地に地下 1 階、地上 4 階の面積 1 千 1 百坪の規模。

10) 京畿道利川市にある三世代の永遠の生命の安息処。10 万坪の大地にある平和公園には、伝統的墓地制度を改善し、国土の効率的利用と快適な安息の公園、休息の空間として世代を繋いでくれる、新しい葬礼文化を先導する地域社会の中の開かれた空間。約 1,400 坪の地下 1 階、地上 4 階の本館棟と奉安棟があり、野外には中央広場とはじめ、訪問客が大自然を満喫できるように散策路やピクニック場などがある。

11) 'ナウリ' の意味：'ナ（私）からウリ（我々）に' という生命拡大、敬愛の拡大、使命の拡大を通して未来部が師の念願する「2030 年学会創立 100 周年」に世界を舞台に活躍する人材へ成長しようという意味があるという。
http://cafe.daum.net/joadam/Fk4A/240?q=%EB%82%98%EC%9A%B0%EB%A6%AC%EB%AC%B8%EC%98%88%EC%A0%9C

12) ハワイや北米の創価学会の初期の展開については、井上順孝『海を渡った日本宗教』（弘文堂、1985 年）が会員へのインタビューやアンケート調査を踏まえた分析をしている。英国の創価学会の信者の特徴については、ブライアン・R・ウィルソン、カレル・ドベラーレ『タイム トゥ チャント―イギリス創価学会の社会学的考察』（紀伊國屋書店、1997 年）が参考になる。また欧米各国における比較的最近の展開を扱ったものとしては、秋庭裕『アメリカ創価学会〈SGI-USA〉の 55 年』（新曜社、2017 年）、川端 亮、稲場 圭信『アメリカ創価学会における異体同心：二段階の現地化』（新曜社、2018 年）がある。